



野村インベスター・リレーションズ株式会社
個人投資家様向けIRセミナー



内外トランスライン株式会社
International Freight Forwarder

プライム市場 9384

2023年6月9日

▶ 会社概要

設立

▶ **1980**年

連結売上高

▶ **473**億円 (2022年12月期) (2023年業績予想**427**億円)

従業員数

▶ **688**名 (単体**226**名)※ ※2022年12月末現在

国内事業所数

▶ **6**拠点

グループ会社

▶ 国内**2**社 海外**12**社

フォワーダー（利用運送事業者）

船舶や航空機を所有せず、船会社や航空会社からスペースを借りて利用し、国際輸送を行う事業者です。

そのなかで海上輸送を行う利用運送事業者をNVOCC (Non-Vessel Operating Common Carrier) と呼びます。



フォワーダーは
お客様の輸送をコーディネート
しています

日本の貿易に占める海上貨物の割合は、 トン数ベースで**99.5%**(2021年) ※1

海運は、わが国の貿易に不可欠な輸送手段であり重要なインフラです



ONE MINATO ※2

20フィート(6メートル)の長さの
コンテナを14,000本積載可能

主要寸法 全長365.94m × 船幅51.2m

載貨重量 147,000トン

建造年 2018年



ONE MINATO 365.94メートル

新幹線 16両編成 400メートル

出典：※1 公財日本海事センター/Shipping now 2022-2023

※2 OCEAN NETWORK EXPRESSホームページ

▶ 混載輸送 (LCL※1) の仕組み

1つのコンテナを複数のお客様でシェア 日本発輸出混載シェアトップ



船会社への運賃支払は
コンテナ単位

コンテナに積載する
荷主数、物量が**収益機会**に直結

顧客への運賃請求は、RT※2単位
効率良く積載することで
売上額に直結

※1 Less than Container Load

※2 容積1m³または重量1tを1RTとして換算し、いずれか大きい方を適用して運賃を算定する

積載効率を上げることは
環境に優しく、当社の利益率向上に直結

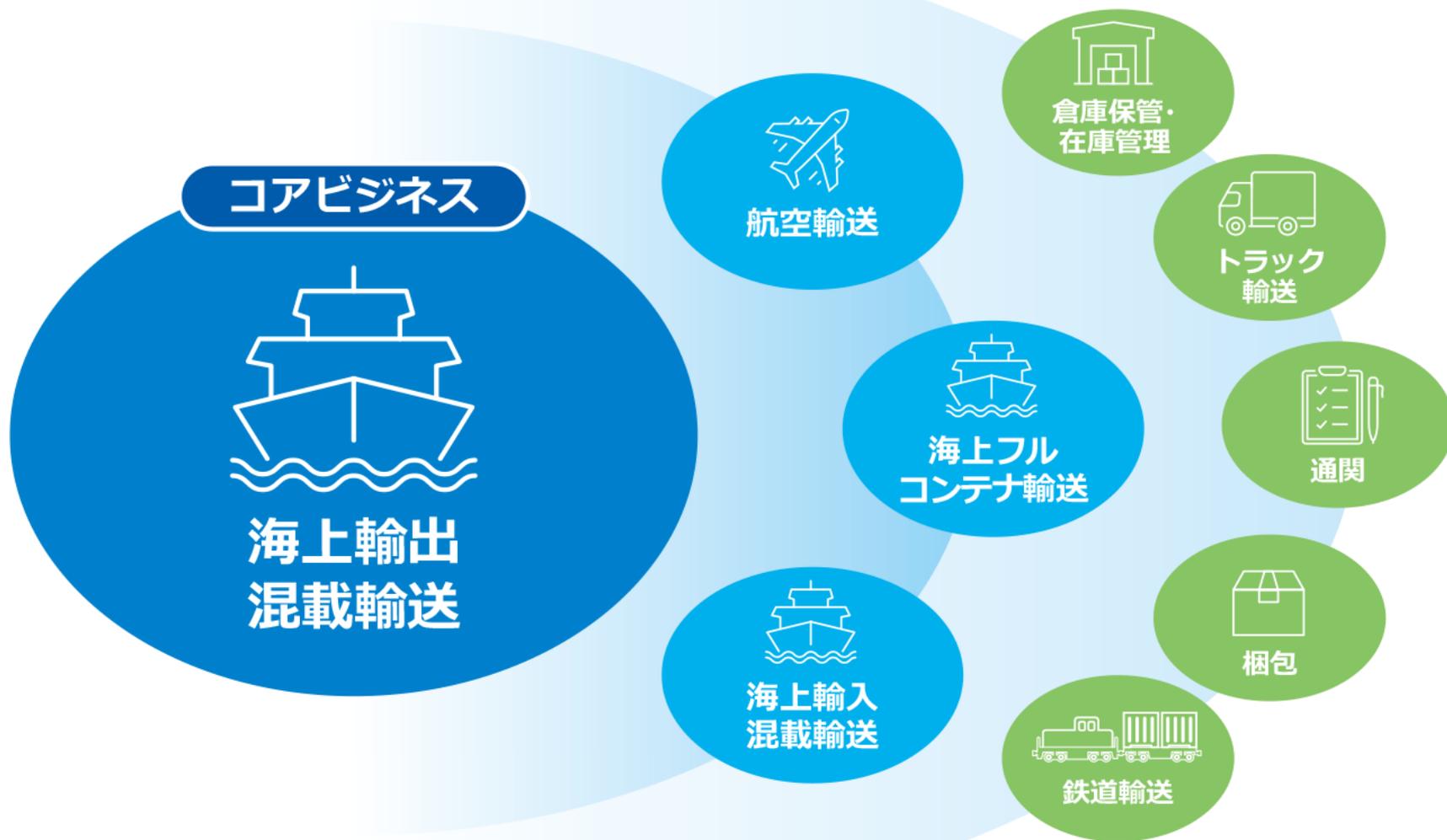
非効率な積載



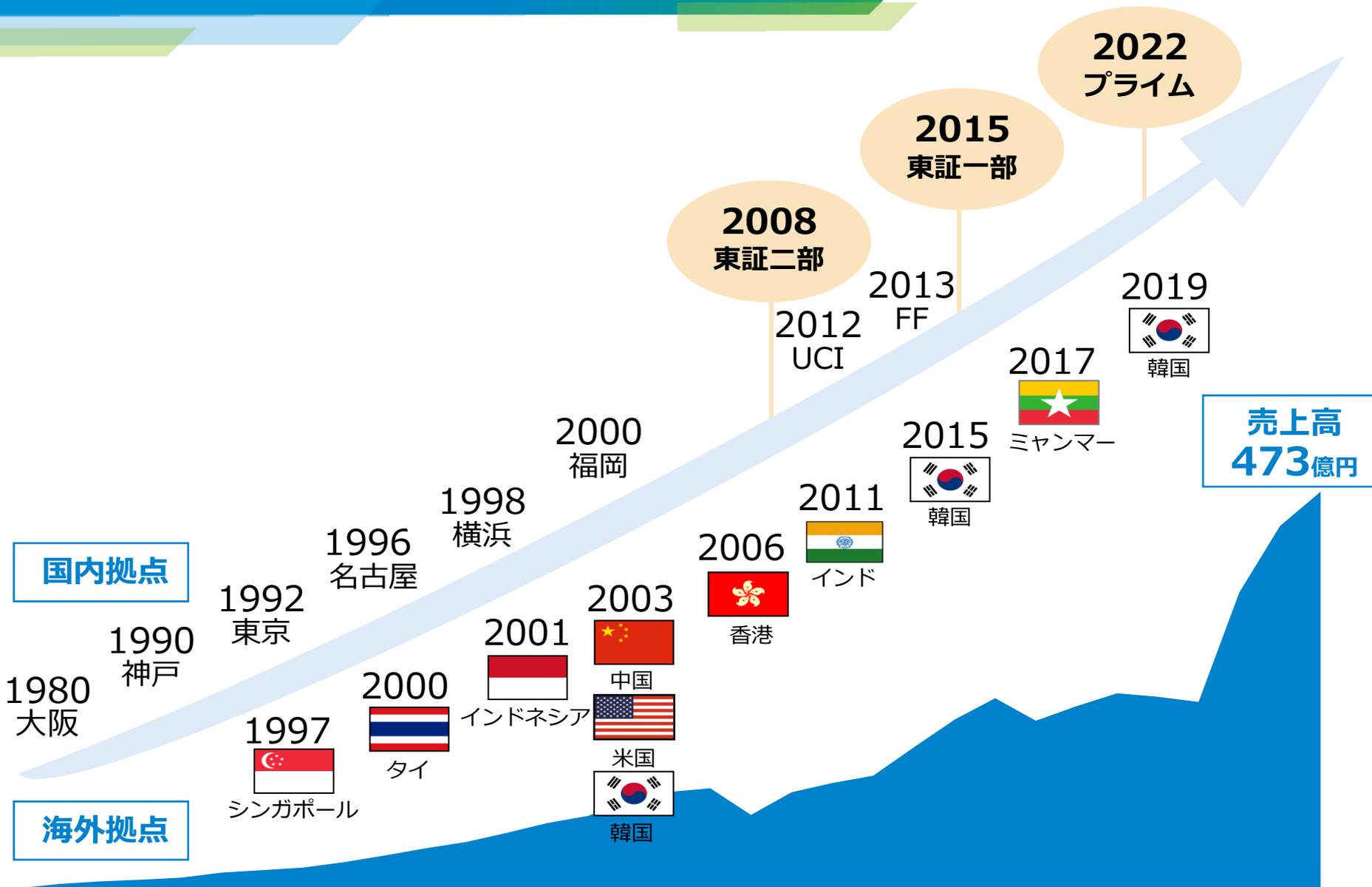
効率的な積載



▶ 当社グループのビジネス



▶ 当社グループの成長の軌跡



強み1 40数年間の輸出混載の実績

1

顧客基盤

多数の取引先
同業他社様

特定業種の
影響少

2

船会社との
リレーション

長い取引歴による
船会社との
信頼関係

調達力

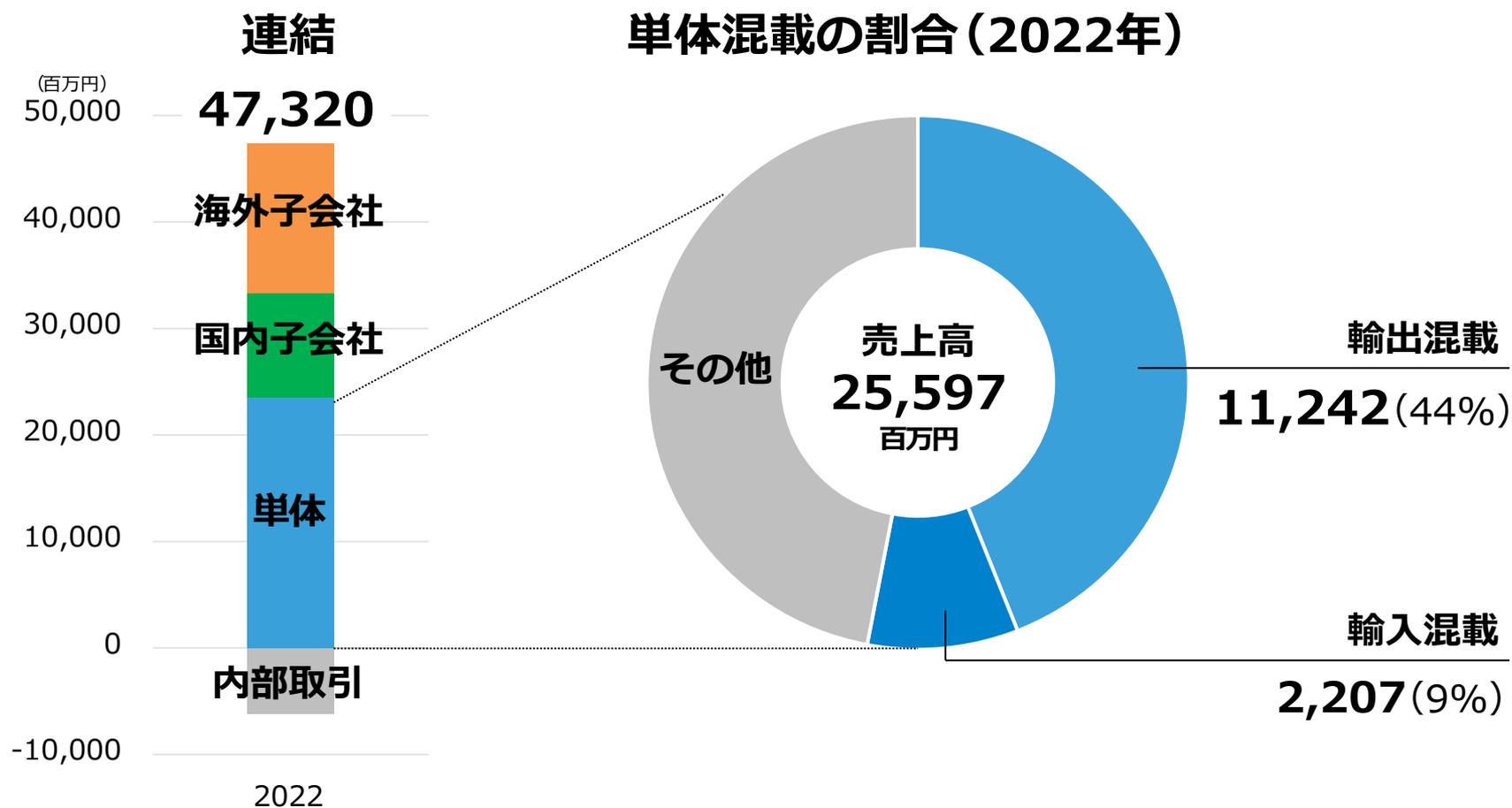
3

海外現法の
収益

現地における
輸入サイドビジネス
の取込み

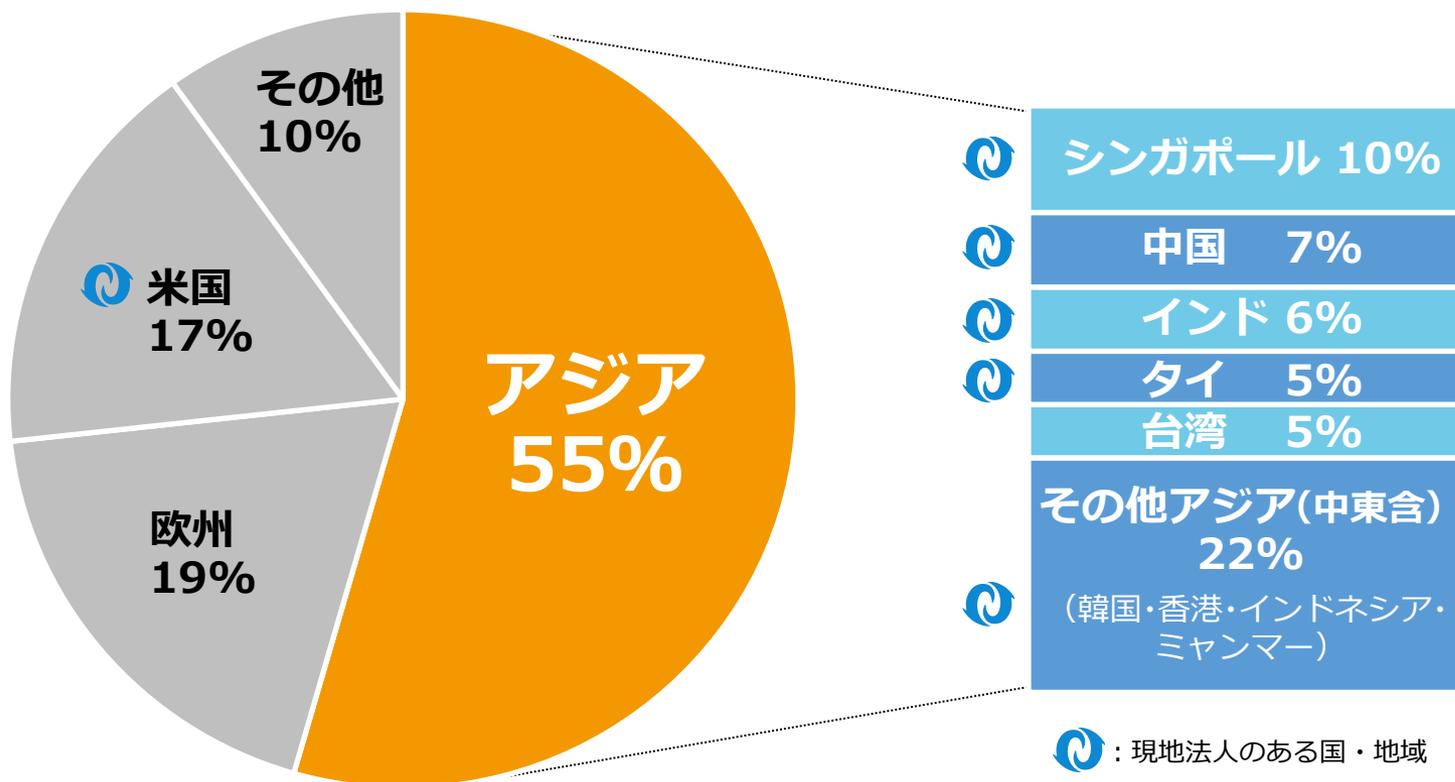
顧客の利便性向上
グループ収益の貢献

強み2 収益性の高い海上輸出混載が主力商品

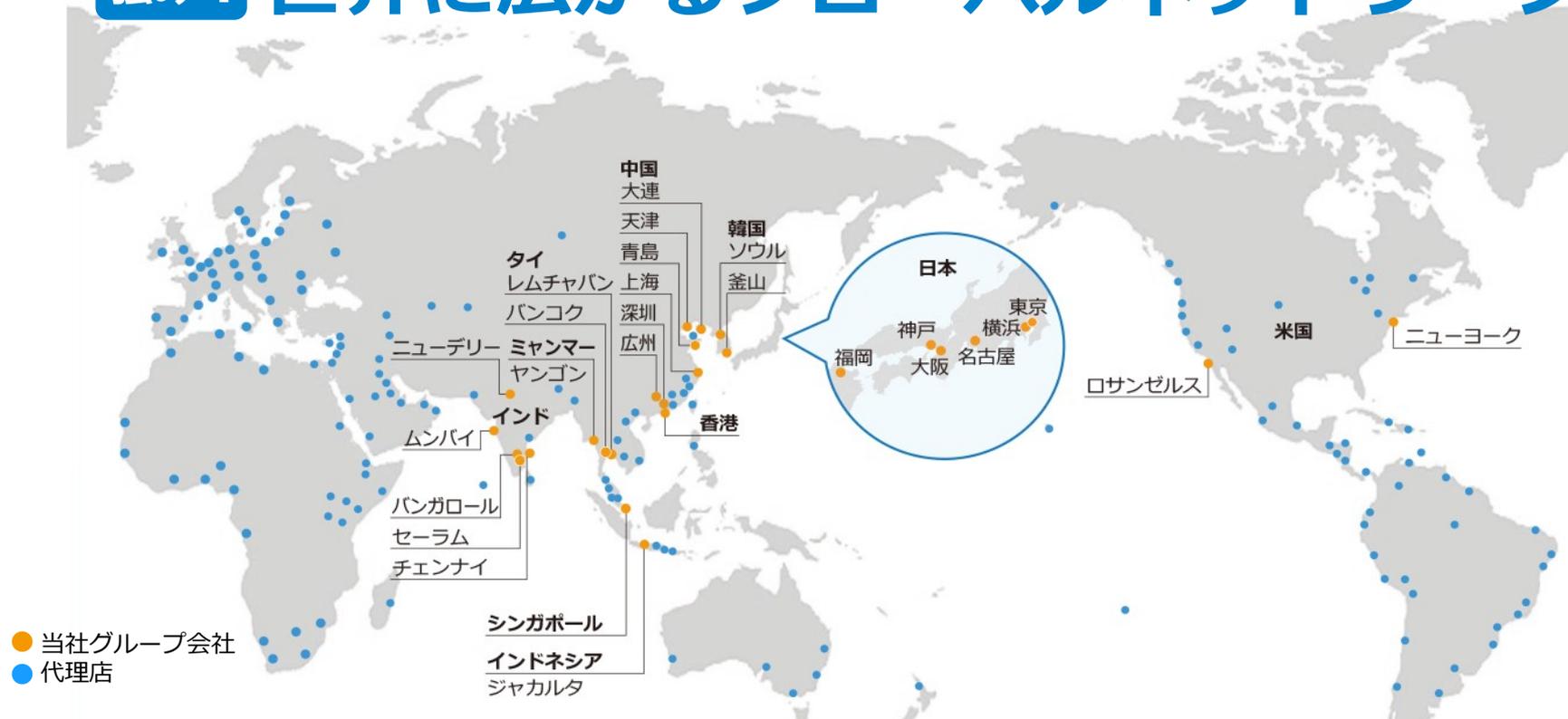


強み3 成長を続けるアジア向け輸出が主力

単体エリア別輸出混載売上シェア（2022年）



強み4 世界に広がるグローバルネットワーク

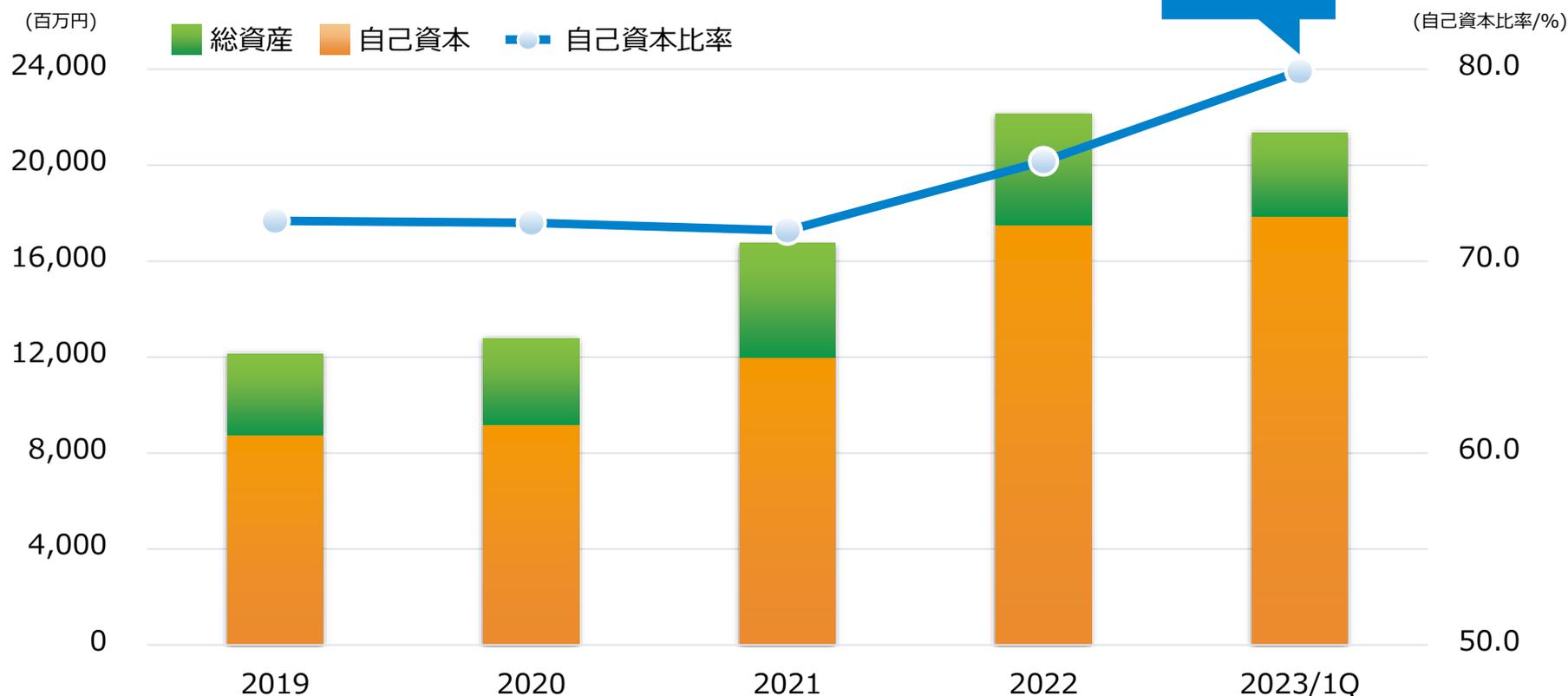


世界**400**か所以上の
地域へ輸送

保管・通関・配送など
フォワーディング
サービスの提供

強み5 有利子負債なし、力強い財務基盤(連結)

総資産と自己資本比率



▶ 連結貸借対照表(2023/1Q)

(百万円)

科目	金額	科目	金額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	17,580	流動負債	2,637
現金及び預金	14,329	買掛金	1,367
売掛金	2,379	短期借入金	0
固定資産	3,780	固定負債	842
建物及び構築物	3,192	長期借入金	0
		負債合計	3,479
		(純資産の部)	
		株主資本	16,181
		資本金	243
		資本剰余金	306
		利益剰余金	16,632
		自己株式	-1,001
		純資産合計	17,881
資産合計	21,361	負債純資産合計	21,361

自己資本比率
79.9%

▶ 連結実績 (2023/1Q)

(百万円)

	2022/1Q	2023/1Q	対前年 増減率	2023/2Q 業績予想	2023 業績予想
売上高	10,911	8,366	△ 23.3%	20,000	42,700
営業利益	1,322	1,331	0.7%	2,500	5,700
経常利益	1,381	1,391	0.7%	2,580	5,860
親会社株主帰属 当期純利益	941	954	1.4%	1,780	4,030

為替レート ¥/US\$ 116.34 132.39

▶ グループ業績ハイライト(2023/1Q)

▶ 単体

- 運賃の下落や取扱数量の減少が響き減収減益。

▶ 国内 子会社

<ユーシーアイエアフレイトジャパン>

- 運賃の下落や取扱数量の減少により減収。
利益確保に努めた結果、増益。

<フライングフィッシュ>

- 得意とする食品輸入のみならず、
積極的な新規取引拡大等により増収増益。

▶ 海外 子会社

- 運賃の下落及び日本からの混載貨物減少の影響を受け、
減収減益。

物流業界の状況



- 港湾混雑の緩和と物価高騰による需要の減退によりコンテナスペースが増加。
- 海上運賃は下落。

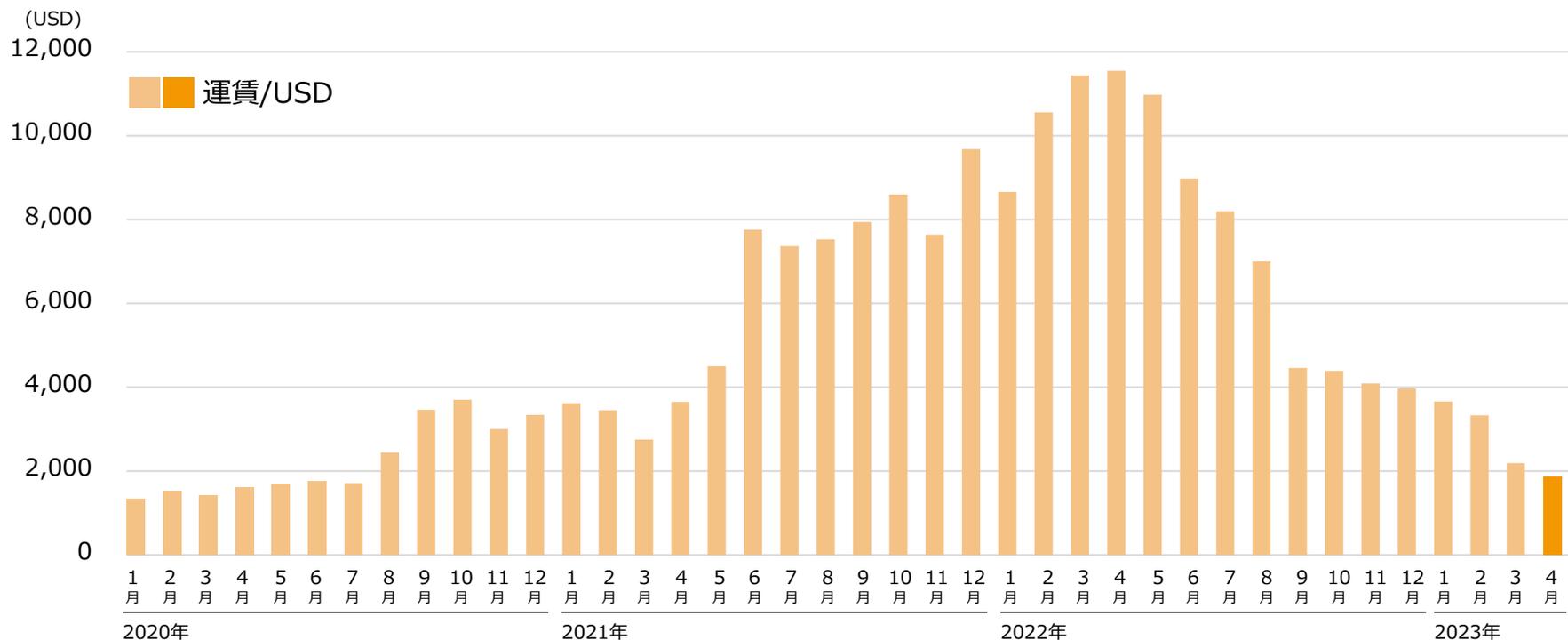


- 港湾混雑で航空輸送にシフトしていた貨物が海上輸送へ回帰し、スペース供給量は増加。
- 航空運賃は下落。



- 海上運賃はドル建てで決定されるため、円安は当社にとってはプラス要因。

北米航路 月別海上運賃の推移(横浜/20ft)



横浜/ロサンゼルス航路コンテナ運賃動向

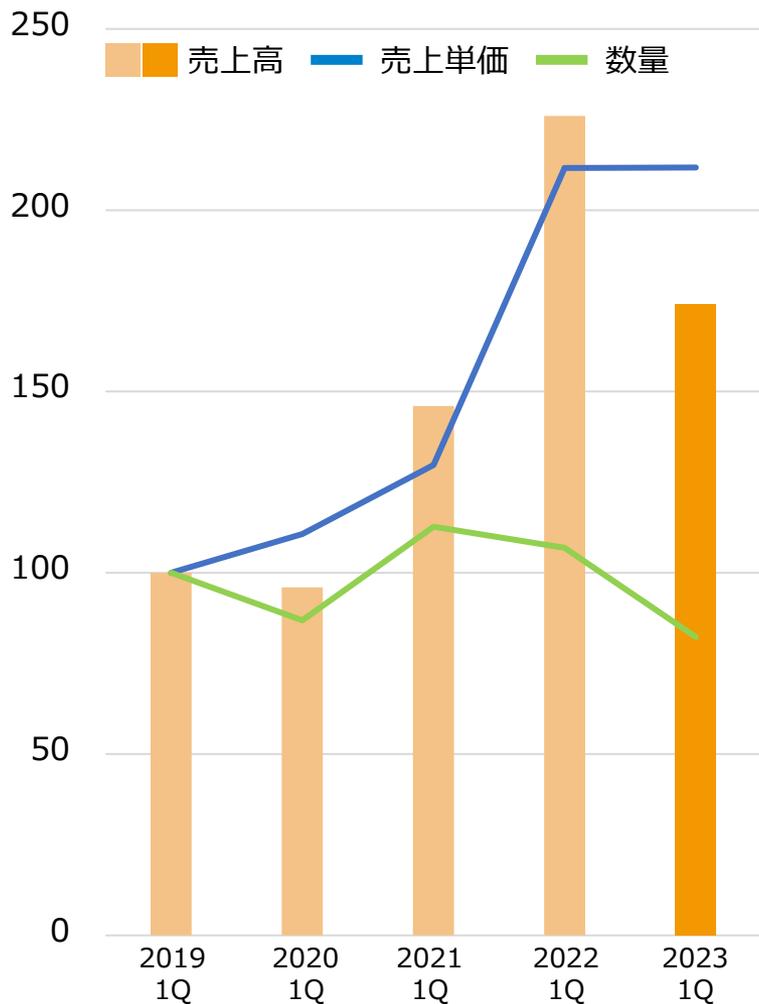
2023年5月30日
(USD)

年	サイズ	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2022年	20ft	8,660	10,560	11,440	11,550	10,980	8,980	8,200	7,000	4,460	4,390	4,090	3,975
	40ft	10,940	12,520	14,380	14,320	13,520	11,510	10,440	9,090	6,650	6,190	5,650	5,500
2023年	20ft	3,660	3,330	2,190	1,870								
	40ft	4,950	4,630	3,490	2,560								

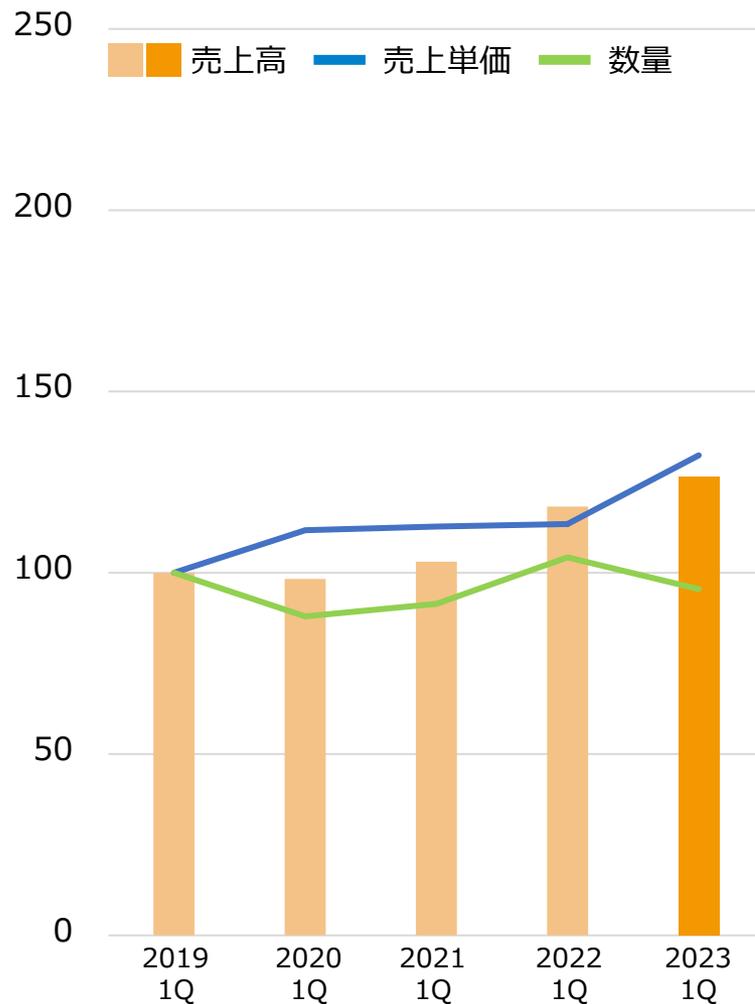
※(公)日本海事センター：コンテナ運賃動向資料を基に当社にて作成

▶ 単体混載売上高・売上単価・数量推移(2023/1Q)

輸出

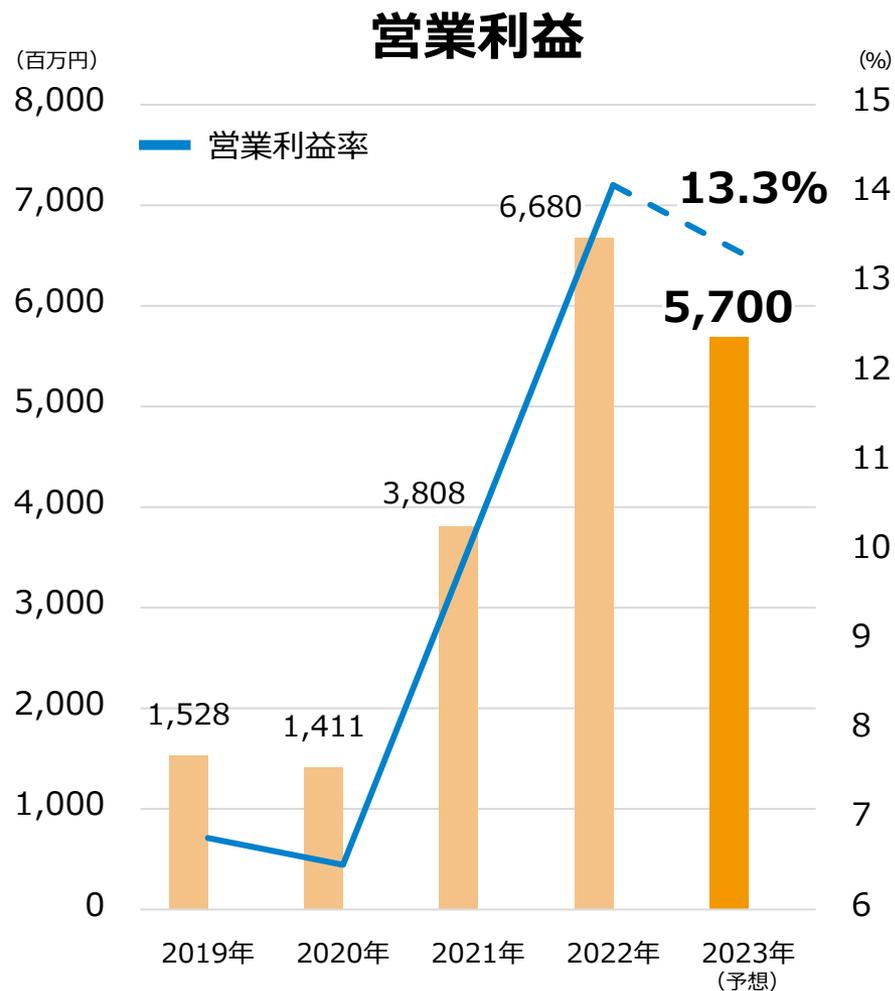
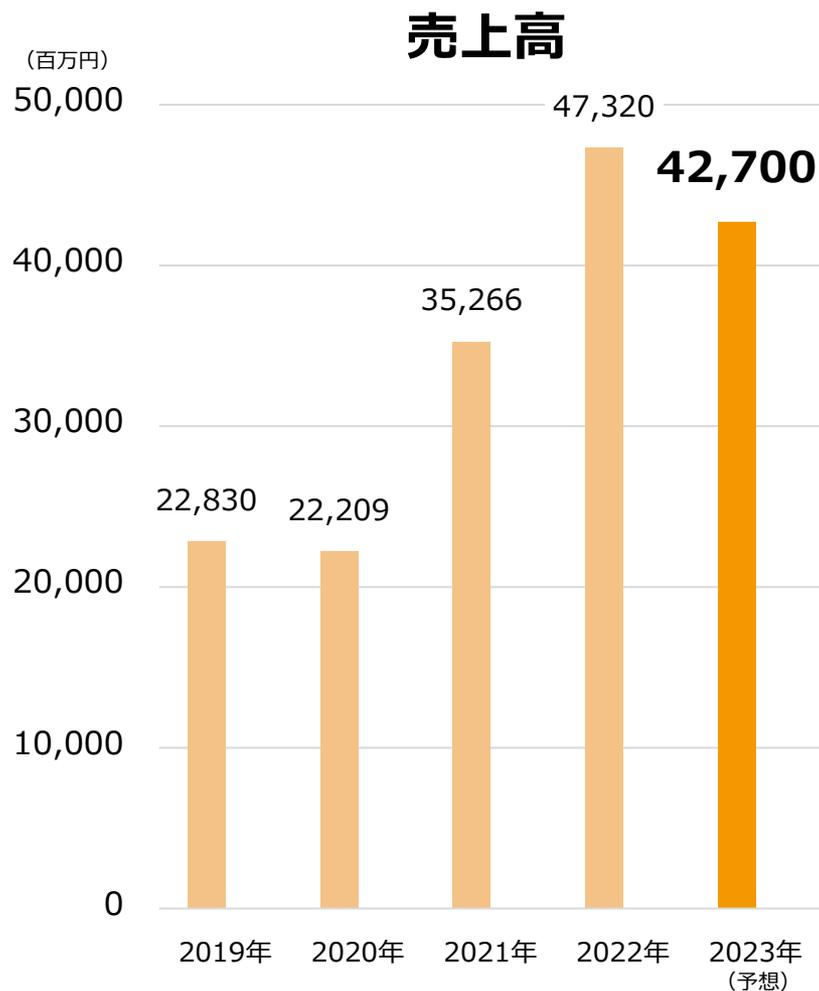


輸入



※2019年1Qを100とする

▶ 連結売上高・営業利益業績予想



当社グループが目指すもの

国際物流における
最高のソリューション
プロバイダーでありたい!

基本方針

真の国際総合フレイト
フォワーダーを目指す

本業の混載で
国内シェアトップ
維持拡大

第2の本業として
フォワーディング
を徹底的に拡大

グループ
売上高
700億円
(2027年度)

当期純利益^{※2}
50億円
(2027年度)

※1 中長期的視点で経営する目的で5か年で設定

※2 親会社株主に帰属する当期純利益

国内



混載事業

事業ノウハウやネットワークを活かし業界地位を堅持、安定的収益確保を実現

フォワーディング事業

グループ間の最適な組織編成により売上と利益の増加を目指す

海外



代理店

さらなる関係強化を図るとともに再編を視野に入れた効率的な運用を行う

新規拠点設立

今後成長が期待できるエリアでの現地法人や駐在員事務所の設立を検討

既存拠点の業務拡大

現地スタッフによる地場企業向けの輸出営業のインフラを構築、日本以外への輸出獲得を目指す



▶ アセット事業「韓国で倉庫を取得」

2023年
5月

韓国の連結子会社

内外釜山物流センター（NBL）が

釜山で3万m²物流倉庫を取得

- **取得金額**：約180億ウォン（18億円）
- **倉庫面積**：約3万240m²

韓国でのビジネス拡大のため、親会社である内外トランスラインは、NBLに260億ウォン（26億円）を増資。



(イメージ図)

▶ IR活動(2023)

2月

- 2022年12月期
決算発表
- **2022年12月期
機関投資家向け
決算説明会
(野村IR)**

3月

- 定時株主総会

4月

- 2023年12月期
第1四半期
決算発表

6月

- **個人投資家向け
説明会
(野村IR)**

7月

- 2023年12月期
第2四半期
決算発表

8月

- **2023年12月期
第2四半期
機関投資家向け
決算説明会
(野村IR)**

10月

- 2023年12月期
第3四半期
決算発表

11月

- **個人投資家向け
説明会 (予定)**

当社は経営理念のもと SDGsと行動規範を関連付け グループ経営を推進



(経営理念・行動規範 2006年7月制定)

※内外トランスライングループは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

■ 当社の行動規範(抜粋)とSDGs

私たちは高い倫理と協調の精神を持って行動します

- 女性活躍推進
- シニア雇用
- 育児・介護休業制度



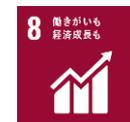
私たちは会社の仕事を通じて社会への貢献を果たします

- 地域社会の発展・活性化・次世代育成
- 環境負荷低減
- CO₂排出量の算出



私たちはたゆまぬ努力により自己の成長を図り、社会を発展させてゆきます

- 社会・経済の発展に貢献



▶ 配当金の実績と予想

(配当金/円)

100.00

■ 期末 ■ 中間 ■ 記念

90.00

80.00

70.00

60.00

50.00

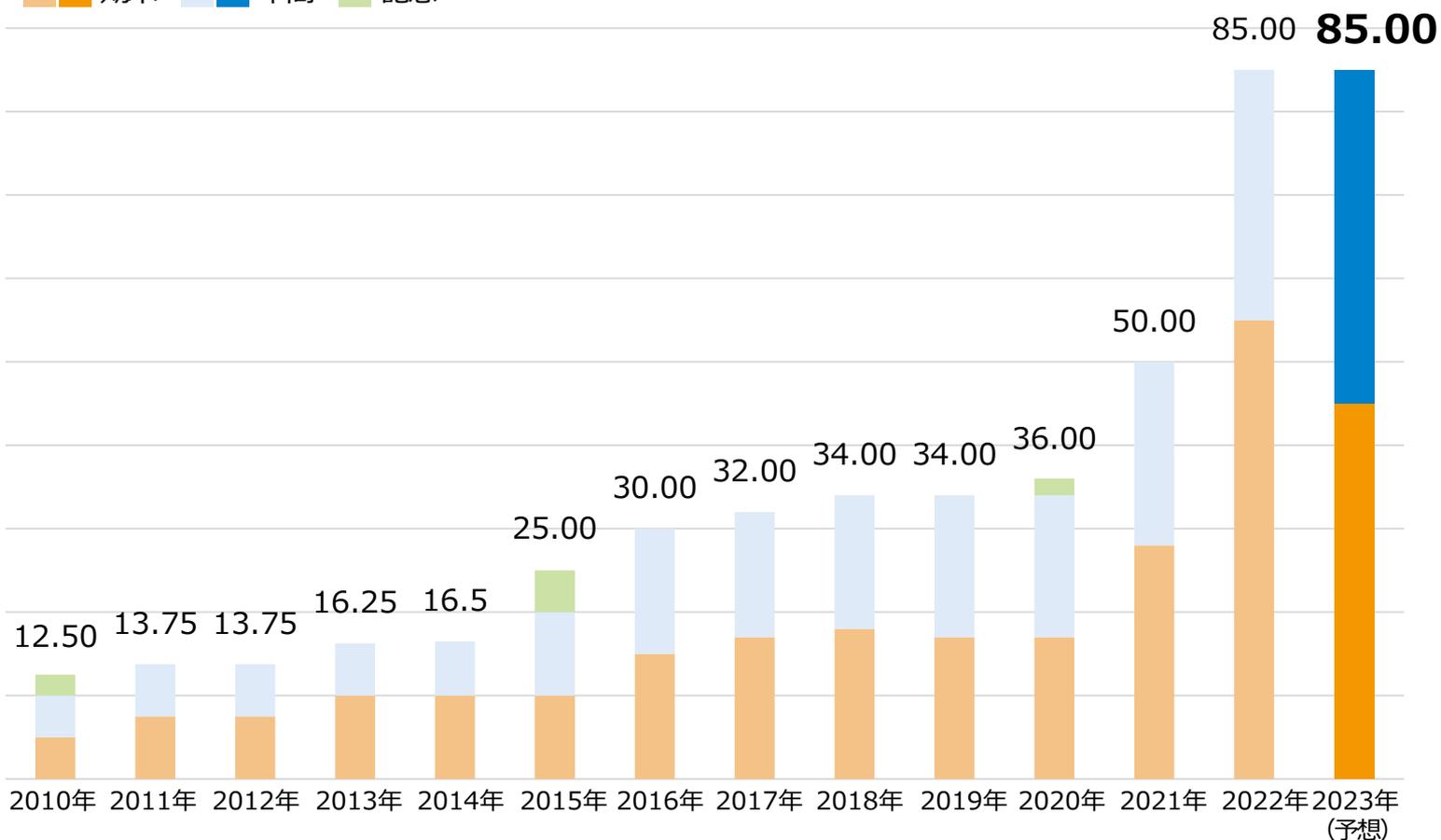
40.00

30.00

20.00

10.00

0.00



※2012年と2015年6月末日を基準日としてそれぞれ1：2の株式分割を実施、上記金額は分割後配当額にて表示

▶(ご参考)株主優待制度



対象株主

毎年12月31日現在の当社株主名簿に記載または記録された
下記保有株数に応じた株主様

100株～200株未満

カタログより1,500円相当
の商品か日本ユニセフへの
寄付を選択



200株～4,000株未満

カタログより2,500円相当
の商品か日本ユニセフへの
寄付を選択



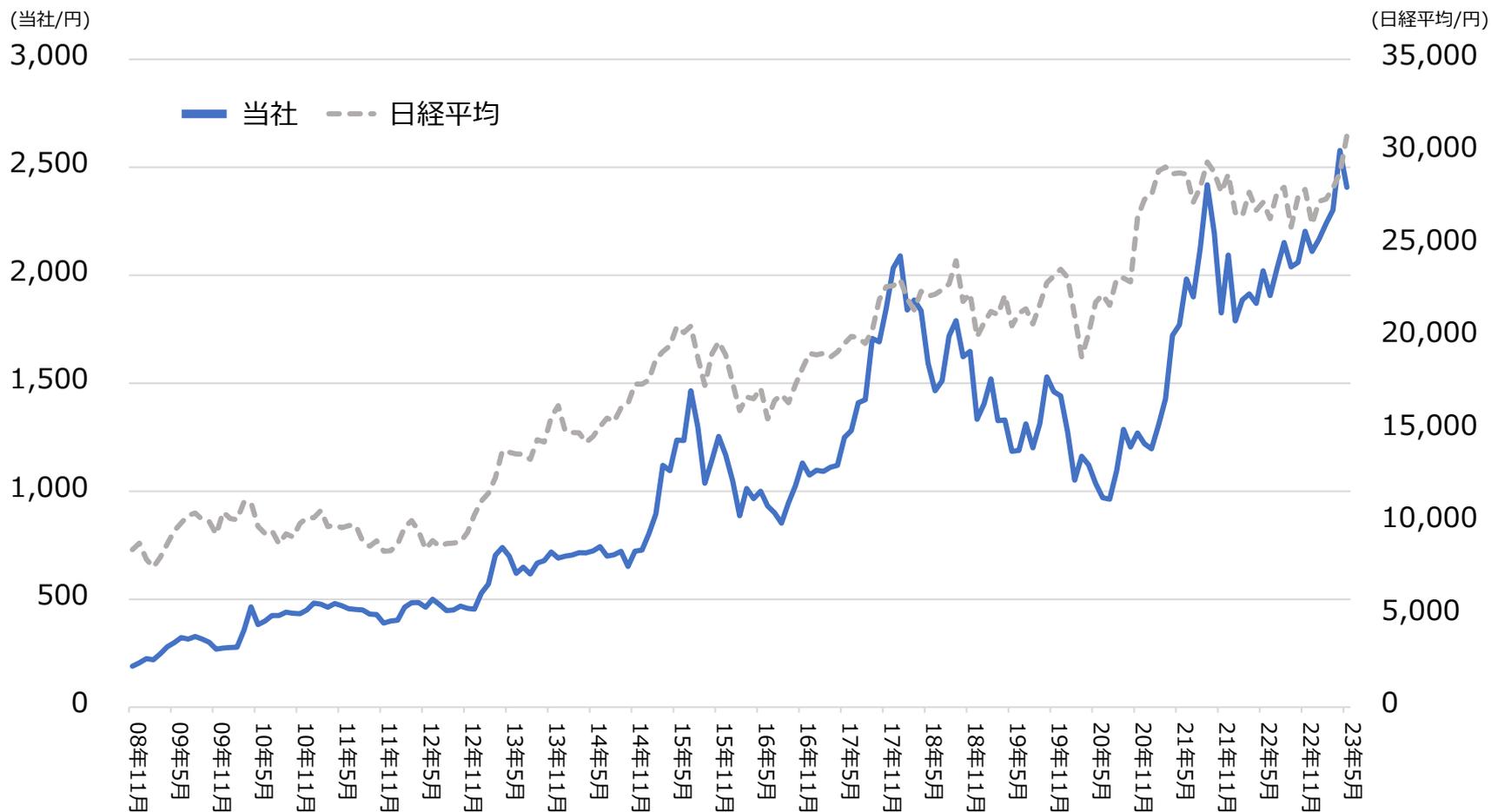
4,000株～

カタログより5,000円相当
の商品か日本ユニセフへの
寄付を選択



※写真は2022年12月期株主優待カタログ掲載商品の一例

▶ 当社株価と日経平均の推移



※2012年と2015年6月を基準日としてそれぞれ1：2の株式分割を実施、分割後の株価を基に算出

出典：Yahoo! JAPANファイナンスを基に当社作成（株価は月末終値）

株価	2008年11月	2023年5月
当社	190	2,407
日経平均	8,512	30,887

▶ 本日のまとめ

事業内容

1. コンテナ船を利用した国際海上輸送
2. 日本発輸出混載シェアトップ

強み

1. 40年以上にわたる**実績**
2. 収益性の高い**海上輸出混載**が主力商品
3. **成長を続けるアジア**向け輸出が主力
4. 世界に広がる**グローバルネットワーク**
5. 力強い**財務基盤**

業績・成長戦略

1. 運賃下落、取扱数量が減少するも、利益の確保に努めた結果、1Qは減収増益で推移
2. 第5次中期経営計画で掲げた施策より、2027年にグループ売上高700億円、当期純利益50億円を目指す
3. 2023年5月、韓国にて3万m²の物流倉庫を取得

株主還元

1. 「株主への還元」は当社重要施策
2. 収益力を強化し配当の増加を目指す

ご清聴ありがとうございました



お問合せ先：取締役 IR担当 三根 英樹

大阪本社 大阪市中央区備後町2丁目6番8号 サンライズビル5階

TEL 06-6260-4800 **URL** <https://www.ntl-naigai.co.jp>

本資料に記載されている計画や見通し、戦略などは既に具体化している事実を除き、本資料の作成時点で取得可能な情報に基づくものであり、これらにはリスクや不確実性が内在しております。そのため、実際の業績などは本資料に記載の見通しや予想とは異なる結果となる可能性があり、その内容を保証するものではありません。